

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和五年六月一日発行 第一二号

檀信徒の皆様こんにちは。紫陽花に色彩が戻ってきました。これからしばらくの間、様々な色花を楽しませてくれそうです。

五月十九日の夜、新造船サンフラワーに乗り込み、高野山へ団体参拝に行つてまいりました。大分からは四十名、高野山で十名の檀信徒様と合流し、総勢五十名の団参でした。

着岸した翌二十日は道中、奈良の法隆寺と中宮寺に立ち寄りました。世界最古の木造建築物には、その理由と美があります。特に大宝蔵院に収められた百済観音様は、私たちに覆いかぶさってくるのではないかとさえ思える細身の八頭身で、猫背の立ち姿は脚の長くなつた現代人を彷彿させながらも、むしろ、こちらが守らなくてはいけないのではないかとさえ思わせる女性つぼさを感じたのは私だけでしょうか。また隣の中宮寺のご本尊は木造菩薩半跏像様です。上野の森納骨堂のご本尊のイメージにもさせて頂いたので、実際にこの目で感じてみたいと願っていた仏様です。やはり、こちらも思っていた以上に細身の仏様でした。鋳造物にも見える漆黒のお身体は長年にわたつてお香に薫じられた輝きだそう、思惟（人々を救う方法を考えている）の様相ですが、向き合っていると何故か心が軽くなつていく気がいたしました。

法要当日の二十一日。皆さんと朝のお勤めに出てからの朝食は早々に済ませて、宿坊の本覚院様を後にしました。

今回の法会は宗祖弘法大師ご生誕千二百五十年の記念法要です。六十名の稚児行列に続き、九州に所属する僧侶、一六名が壇上伽藍を練り歩き、各諸堂へと向かいました。大分支所の担当は山王院です。山王院は大塔の西約百メートルに位置し、少し小高い場所にあります。真言宗を開かれたお大師様は神仏習合をとなえ、古神道の崇拜も欠かしませんでした。高野山の地主神である丹生明神と高野明神をお祭りする御社を伽藍内に建立し、その拝殿となるのが山王院です。私は経頭という配役で、理趣経をお唱えさせて頂きました。途中から皆様にはご焼香と大般若のお加持を受けて頂きましたが、一般の参拝者には上がる事が出来ないのが、この山王院です。私は諸堂の法要全体を見ることは出来ませんでした。最後にはお供えのお下がりもお配りし、お大師様のご生誕を皆さんで喜びました記念法要になつたと思います。

その後、皆さんには大師教会に移り、お授戒を受けて頂きました。私は引き続き法要に出仕しておりましたので、詳細は分かりませんが、これまでにはない神秘的な経験をされたと同っています。お授戒の中では阿闍梨様より、十善戒を受けます。これまで何度も取り上げていますが、私たちの日常生活は身体と

言葉と心で成り立っています。日常の習慣として「戒」を守っていくことを、仏様と自身に誓いを立てるのが授戒です。内容は決して難しいことではなく、小学校に入る子供さんでも知っていることです。「不殺生、不偷盗、不邪淫、不妄語、不綺語、不悪口、不両舌、不慳貪、不瞋意、不邪見」全てを完璧に守ることが出来なかったとしても、先ずは破ってしまったことに違和感を感じる心を持つて頂きたいと願っています。

昼食と買い物を買った後に、一の橋から奥之院までをガイドさんと共に歩きました。団体参拝の間、天気が崩れることなく晴天続きでした。盛りだくさんの行程でしたが最年長、八五才の男性も二キロ以上の道のりを歩き通し、有名人や戦国武将のお墓の説明を受けました。大きな墓石の中身は軽くするためにくりぬかれてある事、盛土をしながら五輪塔を積み重ねて出来上がっていることを初めて知りました。奥之院の御廟では皆さんと共に般若心経をお唱えして、久しぶりに燈籠堂の地下法場までお参りすることが出来ました。

令和五年七月八日（土曜日）十四時より
金剛宝戒寺 本堂において「法話の会」

帰山後に檀家様から何か霊験を頂いたのではないですか？と尋ねられ、思い返すと、行きよりも帰りの方が元気になつた事に気が付きました。

合掌